

微塵ニ破壊シ皇后皇子ハ勿論陪乘ノ官員モ俱ニ沈溺ヒシガ書記官某一人ハ游泳ノ技ニ長シタルヲ以テ漸ク其危難ヲ免レ急忙行宮ニ赴テ其旨ヲ奏セシカバ帝ハ大ニ愁傷セラレ至急令ナド下シ夫々手配セラレシニテ皇后及ヒ皇子ノ死屍ヲ見出シパンコックニ奉送シ式ノ如ク葬祭ヲ營ナマレシガ一特ノ騒動ハ名狀シ難キ程ナリト云々

十四日 本曜日 晴 舊十一日 正午寒暖計六十度

遠カラズ重罪裁判所ヲ各地方ニ置ル、ヲ以テ是レコ附屬ス、重罪ノ監獄ヲモ設置セラル、カコ聞ク
各府縣ヨリ内務卿ヘノ伺並ニ申書等ノ内往々規則ニ戻ル分モ少ナカラザレハ今後右ノ書面ヘハ指令ヲ附セズ内務卿ヨリ親展ニテ訓示サル、ト云フ
公債請書ハ追々下落ノ趣ナレバ此上ニモ下落セハ大ニ都合ナ醜スヘケレバ若シ一層下落テ來サハ各銀行ニ於テ買ツゲ之ヲ防ガントノ内議已ニ決定セシト云リ
來ル十九日東京地方衛生會開場ニツキ參會アルベシ、昨日同會長ヨリ各委員ヘ通知サレシト又同會ノ議案ハ自今以後府下從來開業醫師假免狀付與ヲ停止スル事、醫科及ヒ齒科從來營業ノ者ヘ假免狀ヲ付與、新舊ヲ區別シ之ガ取締リノ方法ヲ設ク、事、開業醫師中組合規則ヲ設ク、事、右ニ條ナリ

十五日 金曜日 晴 舊十二日 正午寒暖計七十度

大審院ニ於テ新築セラル、檢事局、勅奏判ノ三室ニ區別サル、ト云フ
山梨縣下國會願望者小田切謙明氏ハ左ノ書ヲ三條有栖川岩倉ノ三公、各通コテ呈シ、リ曰ク 國會可設乎將不設乎 按明治元年同八年 聖詔示萬機決公論漸次建立立憲政体之意然則設國會我 天皇陛下所夙望焉也以民智未長時勢未可要之他年耳今也人

智已長時機既熟矣以是海內有志之徒勃興四方銳意奮前上書太政官者前後接踵然而官一切排斥曰無受理請願書之成規或曰國民無請願之權利噫何許之於民智未長時勢未可之昔年而不許之於人智已長時機已熟之今日在廷諸公定欲開國會建立憲政体則何爲憂無成規况國民固有請願之權乎唯其曰無成規曰無權利所以致世論紛々蓋亦諸公求之耳伏冀上翼贊慮下副輿望速定受國會請願書之門博採擇海內有志之意見徵之時勢質之民情而見其可則奏上 陛下以發設立國會之一大號令是非謙明等之私願即天下之公望也矣不然人心激動遂釀不測之禍亦不可知矣抑開國會本也定成規末也政府已開國會則何要定成規未開國會又無成規是所以有此願也予豈好就枝葉上云々乎閣下乞諒察焉謙明雖才非識陋而憂內國衰弊憤外邦之陸梁非一日也區々之情不能措因奉書閣下與有栖川親王岩倉公敢致愚忠豈有他心哉蓋三公者翼贊 陛下參決萬機則設國會與否雖出 聖斷抑亦無不成於諸公之輔弼焉胃瀆尊嚴惶悚無已 明治十三年十月十二日

十六日 土曜日 晴 舊十三日 正午寒暖計七十度

長崎ヨリ對州巖原ヲ經テ朝鮮釜山浦ニ達スル海底電線架設ノ爲メ不日工部省ヨリ測量ニ着手サル、ト云フ又本年六月マテ全國ヘ架設セラレ、電信線ハ總計千八百五十餘里

ニテ長延二千九百里ニ及ヘリ其中十二年度ニ架ラレシハ長延五百六里ナリト
北清日報ニ曰ク其名ヲ坤輿ニ森カセル「ヘルムトスベンセル」氏ハ愈々全世界一週ノ
志ヲ起シ明年ヲ以テ合衆國ニ道ヲ假リテ我國ニ來朝シ夫ヨリ凡ソ二年間ノ周游ニテ親
シク入理ヲ講究シ其歸國ノ日ヲ以テ理學ノ大著述ニ從事シテ宿志ヲ達スヘシト
外報ニ曰フ土耳其「コルツ」人ハ大舉シテ「ベルシヤ」領ヲ侵シ百七十村落ヲ掠奪シタリ

十七日

日曜日

晴 舊十四日

正午寒暖計六十九度

海外へ直輸出ヲ獎勵セシメ爲メ大藏省ヨリ紙幣三百萬圓ヲ橫濱正金銀行へ貸與セラソ同
行ヨリ右ヲ望ム者へ更ニ貸與スヘキ方法ヲ定メラレ、ヨシニテ其事ヲ大藏省ヨリ太政
官へ伺ハレシニ此程既ニ許可ノ指令ヲ得タレハ不日施行セラレヘシト
米國人「ニコール」氏ハ人カヲ以テ雨ヲ降ラス器械ヲ發明シ專行免許ヲ得タリ
ト其概法ハ森發物ヲ以テ製造セシ「トルビート」ト「カルトリツギ」ヲ輕氣球ニ搭載シ雲
中ニ發セ「エレンキ」ヲ以テ爆發サスルナリト

十八日

月曜日

晴 舊十五日

正午寒暖計七十一度

宮内省ヨリ熱田神宮ノ神寶ヲ納メラル料トシテ七寶製ノ函ヲ同宮へ奉納セラレタリ
岡山縣ニテ山口 廣島 德島 兵庫 愛媛 島根等七縣聯合シテ中國勸業會ヲ開カレ
各縣ノ勸業課員ガ兩三名ヲ、派出シテ議員トナリ去ル十二日ヲ以テ開會セリト
豫テ參謀本部ニ於テ調製ニ着手セラレシ日本地圖ハ既ニ東京府管轄ノ分ハ全ク功ヲ奏
シ此ヨリ神奈川千葉埼玉茨城ノ四縣へ掛ケ官吏ヲ派遣シテ詳細ニ取調ヘラルト云尤
モ一縣下へ凡ソ十五名宛ニテ追々他府縣へ及ボサルト

監獄署ヲ重罪輕罪ノ二部ニ區別シ佃島ヲ重罪監獄市ヶ谷第二支署ヲ輕罪監獄ニセラル

十九日

火曜日

晴 舊十六日

正午寒暖計六十九度

社寺境内ノ枯木倒レ木ヲ處分スルハ委任中ノ條款ニアレハ風雨ノ爲メ倒レシ節植換ヘ
テ培養ノ行届ク分ハ成丈ケ保存シ風折木等ニテ止テ得ス伐採スル分モ尋常伐木願ノ例
ニ依リ府廳ノ認可ヲ得ラルヘキ等ナリト東京府ヨリ其郡區長へ通知セシ由
淨土宗ハ教務ヲ一層興隆セシカ爲メ關東十八檀林へ東部教務局ノ區置ナル者ヲ設置シ
權少教正以上ノ智識ヲ撰シテ其長トナシ小年ノ僧ヲ嚴重ニ教導スト云フ
元老院ニ於テ既ニ審查ヲ遂ケ大木議長ヨリ其筋へ呈シタル憲法ハ此ニ少シク異見ア
ルヤノ趣キニテ當分發表ヲ見合セラル、ヤコ聞ク
大審院並ニ東京裁判所ニテ此程各判事ガ集會シ現行ノ律令何條ハ新刑法ノ何條ニ適應
スヘシナトノ擬律ヲ草シ相互ニ其當否ヲ討論セラル、ヨシ
檢査院ニテ來十四年一月ヨリ諸官廳及ヒ使府縣へ官吏數名ヲ派遣シ十二年度上半年ノ
歳入出ノ決算ヲ檢査セシメラルト聞ク

二十日

水曜日

晴 舊十七日

正午寒暖計七十一度

今回琵琶湖ヲ始トシテ箱根日光其他全國ノ湖水ヲ測量サル、コ付マツ琵琶湖ヨリ着手
サラルト
福島縣下ヨリ山形縣下米澤へ馬車道ヲ開ク爲メ兩縣ヨリ開鑿ニ掛リタル隧道「ト」ニテ
ル「五百間」ハ本日ヲ以テ全ク成就セシヨシ
高知ノ立志社ト共行社トノ分離論ハ世人ノ注目スル處トナリタルカ去ル九日高知聯合
各社ヨリ共行社へ左ノ書ヲ贈リタリ曰ク過日貴社員中桐島祥陽氏カ數名ノ總代トシテ
立志社ニ寄スル處ノ言ニ依テ觀レハ立志社ハ王政黨ニ非メシテ全ク共和政ノ主義ヲ

日 乘

以テスル云々貴社モ亦タ同氏等ノ目スル如ク信認セラル、カ將又立志社ヲ共和黨ト信認スルハ特トリ右數名ノ意見ナルカ吾輩各社ノ立志社ヲ信スル彼ノ數氏カ言ル如キ論理ニ偏シ共和政ヲ唱フルヲ以テスル能ハス全ク吾輩各社ノ主義ト異ナルナク純然タル立憲王政黨ナル事ヲ信ス若シ貴社コトハ桐島氏ノ如ク信認セラル、アラハ他日貴社ニ向テ一言セサルヲ得サル事アリ乞フ貴社賜ヘ

明治十三年十月九日 發陽社○岳洋社○有信社○修立社○開成社○道遠社右ニ依リ共行社ニ答謝シテ曰ク御尊問ノ趣キ桐島氏等ト同様信認致候ニ相違無之候事 聯合社御中 共行社

追而聯合ノ儀ハ當社ヨリ謝絶致候也

是ニ於テ聯合社ヨリ遂ニ共行社ヘ絶交ノ書ヲ寄テ曰ク我輩各社ハ貴社ヲ聯合ノ中ニ加フルニ已ニ尙シ今ヤ貴社員桐島祥陽氏以下十餘名妄慢無礼ノ詔言ヲ以テ強ク我輩ナル立志社ヲ汚サント欲シ遂ニ該社ノ爲メニ放社セラル、所トナリテ於斯乎我輩各社貴社ニ向テ大ニ詰問ス可キ事アリト雖モ倉卒輕動妄リニ貴社ヲ罪スヘキ非ナルヲ以テ去ル九日我輩聯合各社ハ今ヨリ貴社ノ桐島氏等ト意志ヲ同ニスルヤ否キ尋問セシニ貴社ニ答フルニ之レト同様信認スルヲ以テス果シテ然レバ貴社ノ心事ハ已ニ知レリ故ニ我輩各社ノ義黨ニ相齒スル能ハザル者ナルヲ以テ我輩各社ハ今ヨリ貴社ヲ聯合ノ中ニ加テテ以テ斷然友義ノ交際ヲ絶ツナリ貴社之ヲ知諒セ

明治十三年十月十一日 共行社御中

發陽社以下五社記名

廿一日

水曜日

晴 舊十八日

正午寒暖計六十度

陸軍々人降等ノ罰ニ處セラレ其後下士ノ犯罪ヲ以テ禁獄中降等ノ期限經過スル時舊任ニ復スベキ義ニヤト伺ハレニ伺ノ通リト指令セラレタリ

實洋廢絶ノ請願書ナル者ヲ親列頓(ブリタニヤ)歐洲大陸及ヒ一般ノ聯合會ヨリ我政府諸公ニ寄送シタリ

廿二日

金曜日

半晴 舊十九日

正午寒暖計六十七度

陸軍會計官ハ自今二年毎ニ其任所ヲ交代スルヤニ聞ク
横濱ヘラレドコ曰ク魯國ノ皇太子アレキヤンドル侯ノ攝政官ニ就カレタルハ必ラス魯人欣躍スル所ニテ是ヨリ久シク不幸ヲ蒙リ魯民モ平和ノ幸福ヲ得ルニ至ルヘシ又魯帝カ此度政治ヲ抛ツテ退居セラレハ只一時事ト雖トモ其間政治ノ主權ハ太子ニ附與セラルヘシ然レバ魯帝ハ本年六十三四歳ニシテ身体大ニ疲勞セラレタレハ今回太子ヲシテ攝政ヲシメタルハ恐クハ讓位ノ用意ナルベシ又魯帝ガリバシヤノ宮殿ニ閉居サル、内ニハ必ラス同政府ニ多クノ改革起ルベシコルヤコフ侯ノ一千八百五十四年以來爲シ來リテ政略モ最早臨終ニ近ヅキタリ想フニ侯ニ代リテ其職ヲ續ク者ハバロコ一氏ナルヘシ又將軍フアアユー一氏首相ノ位ニ就カル、ハモスコ一氏ノ愛國心アル政治家ノ皆熱心シテ希望スル所ニシテ其長シヤ之ガ爲メ國ニ幼クアルモ氏ノ其位ヲ占ムルモ亦知ル可ラス吾々ハ皇太子攝政ノ事ヨリ魯國ト曰耳曼ノ交際モ一變スルヲ知ル夫レ斯ノ如クナルヲ以テ太子ハ怒ツテ多クノ弊害ヲ改革シ遂ニ三四年ヲ經ザルニ魯國人民ニ自由ノ制度タル眞成ノ代議政体ヲ與ヘタル、ヤ吾人一般ノ信シテ喜ブ所ナリ

廿三日

土曜日

雨 舊二十日

正午寒暖計六十八度

内閣ニ於テハ内閣委員出席規則ヲ設ケラル、ト云フ
陸軍省ニテハ各府縣ヨリノ指令又ハ徵兵ノ事故アリテ免役スベキヤ否キ不明瞭ノ虞アル事件ナドヲ輯録シ一冊トシ各府縣及ヒ徵兵事務官ヘ參考ノ爲メ下附サルト

日 乘

印刷局ニ於テ十二年後半年度ニ刷造セラレシ紙幣ハ一圓五圓十圓ノ三種ニテ總數三百零七萬三千八百〇九枚ナリ

廿四日

日曜日

晴 舊廿一日

正午寒暖計七十度

銀貨ノ騰貴ハ實ニ其底止スル所ヲ知ラザル景況ニテ昨今ハ一圓七十三錢八厘ニ至リ此上如何ナル勢ヒニ至ルベキカ聞ク所ニ據レバ頃日一參議ハ大藏省ヨリ時々銀貨ヲ賣出シ一時騰貴ノ勢ヲ挫クハ畢竟姑息ノ策ニ過ズ連テモ斯ル事ヲ以テ抗抵スルモ其功ヲ見ル可キニ非ズ故ニ先ツ政府ニテ兼テ目的ヲ立シ通リ歳出上ニ一千万圓ヲ節減シ之ヲ以テ徐カニ其病源ヲ療治セシムルハ如カズ先ツソレ迄ハ傍觀スルノ他方法ナシト言レタリ

從來兵庫並ビニ工作分局等へ警備ノ爲メ巡查四名宛配置コナリシガ本月限り廢止サルト云フ

廿五日

月曜日

晴 舊廿二日

正午寒暖計七十度

從來世界最一ノ高山ハ東印度ノヒマラヤ山(海面ヨリ二萬二尺)ト信ゼシガ此頃ヘラルド新聞ニ記載スル所ヲ見レバオウスタラリヤノ北群島中ニユーゴイチア島ナルヘルキコレス山ハ其高サ海面ヲ抜ク一三萬二千七百八十六尺ニテヒマラヤ山ヨリ高キ一萬二千七百八十四尺ナリト而シテ此山ヲ測量ノ爲メ某國ノ船將ローソンナル者ガ登テ二萬三千尺ノ所ニ至リシニ空氣ノ稀薄ナルガ爲メ呼吸困難シ耳口ヨリ出血スルヲ以テ已テ得ス下山セリト

廿六日

火曜日

半晴 舊廿三日

正午寒暖計七十二度

之ヲ聞ク四五日以前内閣へ 臨御アラセ玉ヒシ砌リ内務卿ヨリ各府縣ノ農事ノ形况書ヲ奉呈セラレシ時某參議ハ玉座近ク進ミテ明治ノ初年ヨリ今年ニ至ルマデ差シタル飢饉モナク殊ニ先年地租ノ額ヲ減セラレ又金納ヲ許サレシ後テ米價騰貴シタルハ昨今農家ノ富裕ハ先年ニ陪シテ殆ント古今未曾有トモ申スベシナト委シク奏上セラレタリト余輩ハ云フ其奏上ノ折リ何リ各府下一般物價騰貴シ貧民四方ニ叫ブ景狀ヲモ並セテ奏上セサリシヤト

廿七日

水曜日

晴 舊廿四日

正午寒暖計七十度

自今毎土曜日ノ午後ヨリ東京府廳ニ於テ刑法治罪法ノ講義ヲ開カル、日ニ府下ノ各銀行カ商議シ大藏省ヘ百万圓ノ拜借ヲ歎願シタリ其故如何ト問フコ退日公債證ノ價格カ下落スルヲ以テ夫ヲシテ相當ノ相場ニ保クシメ非常ノ下落ヲ防ク爲ナリト

廿八日

水曜日

晴 舊廿五日

正午寒暖計六十九度

茨城縣ノ人民ハ士族ヲ尊敬スルノ餘風脱セス誰彼ヲ問ハス途上ニ於テ洋服ヲ着ス者ヲ見レハ路上ニ躡蹠シテ敬禮スル程ナルヲ以テ縣官ニ逢ヘハ事更ラ鬼神ノ如ク敬マヒシガ人見君赴任ノ日ヨリ斷然此惡弊ヲ洗除スルニ注目セラレシト見ヘ路頭ニ人民ノ敬禮スルヲ見ラレバ必ラズ慙慙ニ答禮サル、故ヘ屬官ノ人民ニ待スルコモ自カヲ前日ト異ナレバ僅ノ間ニ大ニ人民ノ氣象ヲ一變シタリト凡ソ土ニ吏タル者ハ人見君ノ如クア

日 乘

ラマホシ

米國桑港ノ諸新聞ニ據レハゲーガントント稱スル支那人ノ會社アリ今ノ清朝ヲ顛覆セ
 ントノ目的ヲ密カニ黨與ヲ囑集スル會社ナルガ近頃スホツキルト街ニ於テ巨大ナ
 ル三層ノ煉化屋ヲ建築シ一室ハ偶像ヲ安置シテ禮拜所ト定メラレタラシキ他ノ室ハ悉
 ヲ集會所トナシタリ此會社ハ既ニ一万人餘ノ黨與アリテ本國ノ黨派ト互ニ通信ヲ忘タ
 ラヌ由又本國ニハ百五十万人餘ノ熱心ナル黨アリト云フ東洋モ亦多事ノ秋哉
 海軍省コテハ上局ノ事務取扱ヲ左ノ如ク定制セラレタリト曰日曜日休月曜日(ナシ)
 火曜日各司令所校長ヨリ上請セシ文章ノ重大ナル件ヲ具陳ス水曜日太政官ハ長官ノ出
 勤六局長ヨリ文章ノ重大ナル件ヲ具陳ス金曜日太政官ハ長官ノ出勤月曜日半休
 元老院ハ會社並ビニ組合條例ノ審査局ヲ置レタリ
 伊豆國ニハ七島ノ外カニ無名ノ嶋嶼亂點スルユエ今度各島ヲ巡視ノ上開拓ニ着手サル
 ト

廿九日

金曜日

曇 舊廿六日

正午寒暖計七十一度

小笠原島ハ警察署ヲ設置サル、ヨシニテ昨日其事務ヲ其筋ヨリ東京府廳ニ事務扱方ヲ
 依托セラレシカ該島ハ路程モ隔タリ且ツ人民モ順朴ナレハ施政上敢テ艱難モ有マシケ
 レハ別ニ警部巡查ノ出張ナクシテ同所詰ノ諸官吏ニテ兼務セラレト云フ又同府管轄ノ
 伊豆七島ノ幅員人口等ヲ調査サレシニ○大島幅員(東西凡二里半南北凡五里餘)人口
 凡四千六百二十七人○利島同(東西凡二里半南北凡八町餘)人口凡二百三十八人
 ○新島同(東西凡一里南北凡二里)人口凡二千五百八十八人○神津島同(東西凡一里餘
 南北凡二里餘)人口凡七百八十五人○シテ自餘ノ三島ハ目下調査中ナリト
 三十日

三十日

土曜日

晴 舊廿七日

正午寒暖計六十九度

各地ニ治安裁判所ヲ設置セラル、コトハ現今司法省ニ於テ取調中ナルガ來年ノ春ナラズ
 シハ其着手ニナルマシ然シ此頃檢事ヲ増加サル、ヲ見レハ右設置ノ砌リ各地ニ派出セ
 シメラル、ナラント説アリ
 士族ノ資産トシテ貸與セラレシ起業公債募集金ハ既ニ二百萬圓ノ餘ニ至リト云フ之
 ニ由テ或人曰然ラハ全國ニ荒蕪ノ地ヲ見ザルニ至リ物産ノ繁殖ハ期シテ待ベント左標
 甘ク參レハ善イガ
 當冬季ヨリ巡查ノ制帽服ヲ改定シテ禮服ニ兼用シ從前ノ禮服ヲ廢サレ、ヨシ
 下野日光山ニ在ル社宇ヲ永ク保存ノ目的ニテ有志者ガ保見社ナル者ヲ設立セシテ聞シ
 召レ特旨ヲ以テ宮内省ヨリ金二千圓下賜セラレタリ

卅一日

日曜日

晴 舊廿八日

正午寒暖計六十四度

華族毛利氏ノ庫中ニ秘スル寶物中ニ御判物ト稱スル一包アリ古來ヨリ未タ解緘セザレ
 ハ其何タルヲ知ラザリシニ此頃始メテ其封緘ヲ披キタルニ豐大閣ヨリ毛利輝光ヲ大明
 國某州ニ封スルトノ封冊ニテアリシト其年月ハ朝鮮征伐ノ前ト聞ケハ豐公ノ意中ハ既
 ニ支那四百餘洲ヲ掌握スルノ畫策定マリシト想像セラレヌ

十一月一日

月曜日

晴 舊廿九日

正午寒暖計六十二度

伊豆國ノ國會請願者ハ其請願手續案ヲ討議シ全州ヲ南北二部二十一區ニ分テ左ノ案ヲ
 結約シタリ 國會請願手續案 第一 我伊豆國ニ於テ國會ヲ希望スル者ハ私心ヲ去
 リ公道ニ基ツキ尊王愛國ノ志ヲ確守スベキ事 第二 各組合町村連合會議員ハ國會
 開設ヲ希望シテ其志ヲ同シ委囑セント欲スル者アレハ帳簿ニ記名捺印セシムベキ事
 第三 全國各(南北)兩部ニ同志ノ惣代一名ツ、ヲ置キ一ヶ月間ヲ一期トナシ當十月ヨ
 リ計算シ各組合ヨリ期ヲ追テ委囑者ノ數ヲ報告スベキ事 第四 國會希望者テシテ

日 乘

左ノ二種コ分ツ 第一種ヲ特別希望者トシ相讓シテ入費ヲ負擔ス(但一錢出スモ此類
コ入ル)第二種ヲ普通希望者トシ入費ハ之ニ課セザル者トス此盟約ニ捺印スル者ハ聯
合會議員ノ職ヲ辭スト雖ドモ結果ヲ見ル非ザレバ此同志者タルヲ辭ス可ラサル事
宮内省中ノ内廷課へ御用内談所ト云フ一局ヲ設ケラレタリト
千葉縣平民太田啓ノ長女こと十八年ハ國會開設請願書ヲ齎ラシ岩倉殿ニ拜謁シ意見ヲ
述ント同邸へ推參セシコ御不在ナルヲ以テ他日ヲ期シ歸リタリト嗚呼偉女ナル哉男子
コシテ此志ナキ者ハ余輩ハ糞投器ノ罵言ヲ與エソノ

二日

火曜日

晴 舊三十日

正午寒暖計六十五度

今度東京灣中ニ中央埠ト稱シ一大埠頭(ハトバ)ヲ新築コナル趣ニテ既ニ内務省ト東京
府トニテ調査ニナリタル築地繪圖面ノ摸樣ヲ聞クニ先ツ品川沖一ノ臺場ヨリ芝濱築地
海面ヘカケケ島マデノ海中ヲ櫛ノ齒形ニ埋立テ其間ニ小舟ノ通路ヲ開キ軍艦漁船モ直
チニ岸ニ達スル結構ナリト
我物産中輸出ノ重ナル者ハ生糸蠶種紙茶ノ三種ナルガ是マデ座シテ需用ノ人ヲ待ツガ
故ニ其價額モ常ニ外客ノ氣息ニ上下サレ利益ヲ失ナフノミナラス却テ大失敗ヲ取ル
屢々ナルヨリ兼テ蠶種紙ノ價額ヲ博スル上州ノ島村并ニ興州ノ某コハ本年ヨリ斷然橫
濱ヘ積ミ送ルヲ停メ伊佛ノ兩國ヘ直チニ輸出スル事ニ決セシト聞シカ果シテ其目的ヲ
達セハ國家ヲ利スル蓋シ些少ニアラザルナリ勉焉其人
不日船舶ノ海上衝突或ハ保險或ハ船頭ノ權限等總テ航海上ヨリ起ル事ノ處分ヲ定メテ
布達セラレ可キ爲ノ目下驛遞局ニ於テ其草案編成中ナリト

三日

水曜日

晴 舊十月一日

正午寒暖計六十六度

參謀本部ハ全國ノ河渠ノ淺深廣狹ヲ實測スル爲メ來月初旬ヨリ尉官數名ヲ出張サル、

ト云フ

四日

木曜日

晴 舊二日

正午寒暖計六十七度

米國ノ大統領ハ昨日三日ガルフナルト氏カ其撰ニ當リシ旨其筋ヘ電報アリタリ
陸軍省所屬地ナル舊城廓中ニ設置スル府縣廳ハ遠カラテ市街適宜ノ地ニ移サル、ト

五日

金曜日

晴 舊三日

正午寒暖計六十七度

司法省御用コテ召出シノ節自今ハ名刺ヲ認ムルニ及ハサル旨向省職員課ヨリ同掛リヘ
通達アリタリ

從來巡查奉職ノ者辭職後再勤出願ノ者ハ檢査ノ上教習所へ入レ夫レヨリ採用サレシガ
以後ハ滿二年勤メ辭職シ再勤志願ノ者ハ檢査ノ上直チニ採用サル、ト云フ

六日

土曜日

雨 舊四日

正午寒暖計六十七度

伯林ノ漁業博覽會へ出品アリシ電機ノ漁具ハ眞ニ珍奇ナル工風ニテ廻航ノ際水上コ微
響ゾモ起サヌ極ノ輕舟ニテ其用法ハ此小舟ヲ魚族ノ集リシ場所ニ進メ風湖ニ關セズ從
テ降シ直ニ餌ヲ附シタル電線ヲ水中ニ投シ魚類ノ近寄ルヲ窺ガヒ舟中ヨリ電氣ヲ通ズ
レハ魚族忽チ其線ニ附着スルヲ見テ線ト共ニ引上ル者ナリト
曩キニ内閣ニ於テ起リシ貢稅米納ノ說ハ其後暫ク中絶セシガ此程又々當局者中ニ隔
年交互ニ米納金納トス可シト論ヲ主張セラレ種々討議アルヤニ聞ク何レモ米價下
落ノ策ヲ講ゼンコソコソ望マシ、

七日

日曜日

晴 舊五日

正午寒暖計六十八度

兼テ世人ノ耳朶ヲ欬クテ其如何ヲ俟タル請願手續書モ元老院ノ討議ニ付セラレシ山其
大略ヲ聞クコ私益ニ關スル者ヲ請願トシ公益ニ關スルヲ建白トシ建白ハ元老院ニ呈シ
請願ハ其主務省へ宛テ何レモ管轄應ヲ經由スル事トシ連台代人等ヲ以テスル事ヲ許サ

レヤルヤノ趣キニ漏聞ス尤モ建白ノ取扱ハ餘程鄭重チ加ヘラレ採用却下等總テ議官ノ決議ニ依リテ指令セラル、ト風説セリ果シテ然ラハ同胞三千五百萬ノ過半數ガ希望スル國會請願モ泣キ寐入りナラシト想像セザルヲ得ズ
富士山ノ淺間神社ハ自今奥宮ト改稱セラレタリ
京都府ト其府會トノ葛藤ハ府會ハ遂ニ全勝チ得タリ内務卿ノ指令ニ曰ク府會ノ議決ハ總テ之ヲ允當トシテ議決ノ通り認可スベシ

八日 月曜日 晴 舊六日 正午寒暖計六十五度

各人民ヨリ民刑判決不服ニテ司法省ヘ歎願スル者ハ一ト先ツ民刑兩局ノ内ニテ受領シ後チ本人ヲ呼出シ却下セラレシ處以來ハ事柄ニ依リ内記課ヘ廻シ司法卿ノ一覽ニ供スル事ニ定マラシト聞ク
内務省ヨリ府縣ノ稟請ニ依リ數郡ヲ聯合シテ一郡廳ヲ置クコトヲ得タルトキ議員撰舉ノ儀ニ付法制部ヘ質議サレシ所ニ其回答ニ曰ク數郡ヲ聯合シテ一郡廳ヲ置クノ儀ハ其各郡ヨリ五人以下ヲ選舉スヘキ者トス

九日 火曜日 晴 舊七日 正午寒暖計六十七度

今回上總國夷隅郡小濱ヘ新港ヲ築造サル、趣ニテ其ニ測量モ終リタルハ不日着手セラレベシト云フ
皇城ノ建築ハ勤儉ノ御趣意ニ基ツキ一時御見合セノ模様ナリ、ガ今度イヨク御新築ノ事ニ決セラレタリ
第二回勸業博覽會ノ築造モ稍ヤ功チ竣ヘ該事務局ニ於テハ既ニ來着セシ物品ノ目錄ヲ編輯サル、手筈ナリト云フ

十日 水曜日 晴 舊八日 正午寒暖計五十九度

内務省取調局ニ於テハ最早來十四年ノ地方官會議ノ草案ニ着手サレ委員ハ品川少輔ト書記三名ニテ本年中心ニ整頓サル、ト聞ク
太平洋郵船會社ハ此度納積債銀中日本ノ玩器(驕奢ニ屬スル漆陶器類)ヲ運輸スルコト非常ノ高價ナル債銀ヲ受ル事ニ改正セシヨシ其故如何ト問ヘハ近來我邦ヨリ無用ノ玩弄物ノ多シ彼國ヘ輸入シ驕奢ノ風漸チ追テ長ズルガ故ニ之ヲ豫防センガ爲メ斯ク高料ヲ貪ホリ暗ニ保護稅主義ヲ爲スナラント云リ

十一日 木曜日 晴 舊九日 正午寒暖計六十五度

聞ク所ニ據ンバ不日官員ノ職務ヲ免ゼラル、者多カルベク而シテ其中多年功勞アル者ハ終身俸ヲ賜ハルコトニナルト
上海新聞ニ據ルニ曰ク李章伯ガ近頃曾侯ヨリ落手シタル書ニ諸事整頓シタルチヤノ價金ハ二百萬錠ニ決シ條約ノ十八ヶ條ハ減削シテ十六條トナシタリト又支那コトハ和議ヲ希望スル者十中ノ六開戰ヲ主張スル者十中ノ四ナリト云々

十二日 金曜日 雨 舊十日 正午寒暖計五十八度

之ヲ聞ク陸軍裁判所ニ於テハ御用掛リ數名ヲ置カシ右ノ内准判任ハ主理ニ就テ法律ヲ學バセ准等外ハ捕部ニ就テ捕部ノ職ヲ見習ハセ軍律改正發行ノ際本會ニ充テラル、ト聞ク
開拓使ニテハ今回ノ布達ニ基キ管下諸工場ヲ拂下ケ手續キ取調委員ヲ設ケラレタリ
近頃各府縣ノ長官ヲ召サル、ハ第四十八号布告ニ付向ホ地方ノ施政改良セラル、爲メナリト聞ク

十三日 土曜日 雨 舊十一日 正午寒暖計五十八度

此程海軍省中ヘ政談所ナル者ヲ設ケ省中ノ諸務ヲ討議セラレ重大ノ事件ハ其主任者ニテ商議シ又平常ノ諸件ハ互ニ合議シテ取扱ハル、ト

東京大學ハ此程規則ヲ嚴重ニ改正セラレ些少ノ科ト雖モ皆ナ嚴罰ニ處セラレ生徒四名以上共議シテ校長ニ建言歎願等ヲスル者ハ退校センメラシ又タ生徒ニ於テ預說會ヲ起スモ成ヘク制止シ校内ニ於テ催ホスモ最モ嚴重タリ且學科外ノ政事ニ關スル書ハ都テ披閱ヲ差止メラル、ト風説スルカ河野君文部ノ卿タル間ハ有マシキ事ニ想ハルレバ恐クハ齊東ノ野語ナルベシ

大臣參議ノ護衛騎兵ハ愈々廢止セラレタリ

國會開設ニ熱心者其人アリト知ラレタル高知愛國社ノ西山眞澄ハ沖繩縣吏ニ拜命シ月給ハ六十圓ト云フ阿々

十四日 日曜日 晴 舊十二日 正午寒暖計五十九度

長野縣下諏訪ノ士族増田某カ主唱者トナリ有名ナル諏訪ノ湖水ヲ開鑿セント同志ヲ募リ方法ヲ立テ縣廳ニ上申セシ處口速カニ認可ニナリシカハ同氏ハ内務省へ出願ノ爲此程上京シタリ右湖水ハ方一里ニ過ヤレ其七分通リヲ開鑿スレハ四十四万四千六百餘坪ノ良田ヲ得ルト云ヘリ

十五日 月曜日 晴 舊十三日 正午寒暖計五十九度

東京ヨリ上州ニ至ル鐵道設置ハ財政困難ノ場合ニ際シタルヲ以テ見合セラレ、事ニ決セシガ今回之ヲ第十五國立銀行ニテ負擔シ敷設ニ著手スルト聞ク

嘉永癸丑以遠國難ニ殉セシ報國有志ノ靈ヲ慰セン爲メ祠堂ヲ府下道灌山ニ建立セント發起人ハ此頃周旋中ナリト云ク

海上裁判所訴訟規則ハ此程既ニ編纂ノ功ヲ竣へ上奏セラレシト云フ然ラハ發行モ遠カラサルベシ

日	正米平均金貨	銀貨圓	赤穂擔	金七分利公債	石中油	一兜	限十	蠟殼同	十二限
一日	五〇圓一六八	圓八五七	七一	六四圓六五圓	八二	九	圓九	圓六	六圓
二日	一〇、七五七	一六八、三	一、七七	六四、七〇	二、九〇	九、七四	九、八三	六、五〇	六、五〇
三日	休	休	一、七七	休	二、九〇	休	休	休	休
四日	一〇、九八六	一六六、〇	一、七七	六五、〇〇	二、九〇	一〇、〇一	一〇、二二	六、五三	六、五三
五日	一〇、九八六	一六六、〇	一、八〇	六五、二〇	二、九〇	一〇、〇一	一〇、〇三	六、五七	六、五七
六日	一一、二二九	一六八、五	一、八〇	六五、四〇	二、八八	一〇、二八	一〇、三〇	六、六四	六、六四
七日	一一、二二九	一六八、五	一、八〇	六五、三〇	二、八八	一〇、二四	一〇、三〇	六、六二	六、六二
八日	一一、二四二	一六八、五	一、八〇	六五、二〇	二、九〇	一〇、二二	一〇、二八	六、五八	六、五八
九日	休	休	一、八〇	六五、二〇	二、九〇	一〇、二二	一〇、三二	六、六三	六、六三
十日	休	休	一、七七	休	二、九〇	休	休	休	休
十一日	一一、二四二	一六八、五	一、七七	六五、二〇	二、九〇	一〇、二〇	一〇、二〇	六、六三	六、六三
十二日	一一、〇三六	一六九、〇	一、七五	六五、二〇	二、九〇	一〇、二六	一〇、二八	六、五九	六、五九
十三日	一一、一〇一	一六九、五	一、七五	六五、二〇	二、九四	一〇、二六	一〇、三三	六、五五	六、五五
十四日	一一、一〇一	一六九、五	一、七五	六五、一〇	二、九四	一〇、二六	一〇、三三	六、五五	六、五五
十五日	一一、一〇一	一六九、五	一、七五	六五、一〇	二、九四	一〇、二五	一〇、三三	六、五八	六、五八
十六日	一一、一三三	一七〇、〇	一、七五	六五、一〇	三、二〇	一〇、二〇	一〇、一九	六、五九	六、五九
十七日	休	休	一、七二	六五、一〇	三、二〇	一〇、二〇	一〇、二二	六、六一	六、六一
十八日	一一、二七〇	一七三、五	一、七二	六五、五〇	三、三八	一〇、二四	一〇、二四	六、五七	六、五七
十九日	一一、二七〇	一七三、五	一、七二	六五、五〇	三、三八	一〇、三三	一〇、三一	六、五六	六、五六

明治十三年十月中東京市中取引貨物現品相場日表

東京兩米商會所 株式取引所

卅一日	三十日	廿九日	廿八日	廿七日	廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日	廿日
休	二、三八一	二、三八一	二、四六八	二、四六八	二、七〇五	二、七〇五	休	二、七〇五	二、五九二	二、四〇四	二、二八九
休	一九〇、〇	一九〇、〇	一八八、〇	一九三、〇	一九〇、〇	一八〇、〇	休	一八〇、〇	一九二、〇	一八四、〇	一七八、五
休	一七〇、〇	一七〇、〇	一七五、〇	一七八、三	一七八、〇	一七二、〇	休	一七三、〇	一八一、〇	一七四、〇	一六六、八
一、七三	一、七三	一、七〇	一、七三	一、七〇	一、七	一、七〇	一、七三	一、七三	一、七三	一、七三	一、七三
休	六三、八〇	六四、〇〇	六四、〇〇	六三、八〇	六三、八〇	六三、八〇	休	六四、〇〇	六四、〇〇	六四、五〇	六四、九〇
休	六五、五〇	六六、〇〇	六五、五〇	六五、五〇	六五、五〇	六五、五〇	休	六五、五〇	六五、五〇	六五、五〇	六五、五〇
	三、六八	三、七〇		三、七〇		三、七〇		三、六一		三、六〇	
休	一〇、二九	一〇、五三	一〇、八三	一〇、八六	一〇、九一	一〇、八八	休	一一、〇三	一〇、九八	一〇、六九	一〇、四九
休	一〇、四四	一〇、五八	一〇、七六	一〇、八六	一一、二二	一〇、九四	休	一一、一五	一一、〇〇	一〇、六九	一〇、三九
休	休	六、三八	六、四三	六、四五	六、四五	六、四六	休	六、四九	六、四〇	六、四七	六、五三

東京神田區神田五軒町十八番地 弘令社

社主 小笠原美治

編輯 同人

印刷 吉野朝計

明治十三年十一月三十日新刷

大坂備後町角

專賣書肆

吉岡平助

大
函
架
冊

第三百九十一號
卷五